

# 蚕糸功績賞

秋山 眞和

## 功績概要

氏は、父の染織の技術を受継ぎ、妥協することなく最高の布を作り上げることに情熱を注ぎ取り組んできた。その技法は国内外で認められ、国の「現代の名工」指定や黄綬褒章受章の榮譽に浴するとともに、パリで講演会や個展を開催するなど海外でも高く評価され国際交流にも貢献している。

染色では、室町時代から続く天然灰汁発酵建てによる藍染め技法を探求し、平成20年に綾町の無形文化財として指定された。また古代には皇帝や貴族しか身に着けることができず、世界的にも技術が途絶えていた貝紫による染色の復活に取り組み、昭和57年に日本産の貝による実用貝紫染色に世界で初めて成功した。

これらの技法をもとに、阿波・蜂須賀家や会津若松・松平家の熨斗目着物の復元や宮内庁三の丸尚蔵館の特別展示等に貢献するとともに、皇室関係者をはじめ国内外の要人の工房視察を受け入れている。

平成20年に「純国産絹製品」を「国産ブランド」として確立することをねらいとして開始された国の「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」に、提携グループ「綾の小石丸の会」を設立主導して参加し、平成31年度からは補助金に頼らず自立した提携グループとして活動を続けている。

令和5年4月には、宮崎市で開催されたG7宮崎農業大臣会合のブース展示において、日本の在来品種小石丸を用いた養蚕と製糸、染色、機織りまで手作業で行う高品質な純国産絹製品を紹介し、和の文化の魅力発信に貢献した。

現在も精力的に活動し、現在は綾の手紬染織工房にて後進の育成に努めながら、新たな挑戦に情熱を注いでいる。

以上のように氏は、我が国の蚕糸絹業の振興発展、蚕糸絹文化の向上に貢献し、特に功績顕著と認められる。

# 蚕糸功績賞

新保 博

## 功績概要

氏は、昭和48年に農林省蚕糸試験場に入省以降、カイコの生理生化学的研究に従事した。中でも、含硫アミノ酸の利用と代謝には、卵形成との関連において、雌雄間で顕著な差異のあることを明らかにし、蚕糸学賞を受賞するなど基礎研究として高い評価を受けた。また、凍結・融解した卵巣及び精巣から次代蚕を回収することに世界で初めて成功し、凍結保存技術を利用した蚕遺伝資源の長期保存への途を切り開いた。この業績に対して貞明皇后記念蚕糸科学賞が授与された。

平成15年以降、独立行政法人農業生物資源研究所の企画調整部長、理事などを歴任し、日中共同のカイコゲノム解析、遺伝子組換えカイコによる高機能絹糸及び酵素などの有用タンパク質の生産、新しい加工プロセスによるシルクタンパク質新素材の開発など、「新たなカイコ産業の創出」を目指した大型研究プロジェクトの推進を主導した。

さらに、独立行政法人農業生物資源研究所、財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所などの研究推進体制の改革に取り組むなど、強いリーダーシップを発揮して蚕糸・昆虫機能研究を牽引した。

また、農林水産技術会議事務局の首席研究調査官、研究管理官、研究開発課長として、蚕糸関係の研究を含む我が国農林水産研究の推進に貢献した。

以上のように氏は、我が国の蚕糸絹業の振興発展、蚕糸絹文化の向上に貢献し、特に功績顕著と認められる。